

総合海洋政策本部参与会議（第36回）議事概要

◆日時：平成29年11月17日（金）10時00分～12時00分

◆場所：中央合同庁舎4号館12階 1208特別会議室

◆議事概要（参与の発言は○、事務局の発言は●で示す。）

1. 開会

〔配布資料について事務局から確認があった。〕

〔参考資料2について下のとおりご発言があった。〕

- 海洋の安全保障小委員会につき、参与・有識者の意見の概要をまとめた文書も公開することがすでに了解されている。これは、意見書に添付される報告書では、必ずしも、すべての意見を記載することはできなかったこと、今次、初めて、海洋の安全保障にふくまれる施策の外縁を検討したのであり、その議論の経緯を後代に示すことは必要かつ適切であることから、公開をご了解いただいた。

2. 参与会議意見書のとりまとめについて

〔資料2、参考資料1について事務局から説明があった。以下、意見交換。〕

- 「自由で開かれたインド太平洋戦略」について加えていただいたが、例えば、資料2-1P9の(1)①のはじめのポツの「漁業資源の乱獲等、」の後に「さらにインド洋上のシーレーンの安全確保を含め」を加え、次のポツに「海に由来する自然災害の中でも、将来巨大化が懸念される台風や高潮による被害、また、南海トラフ地震等の」と追記し、説明を補うのは如何か。諸外国の減災に日本のデータが貢献できるのではないか。

また、海賊のことが記載されていないが、記載すべき。

人材PTの際にも話したが、47都道府県のうち39都道府県が海に接しているため、地方創生のことを1項目増やしてもいいのではないか。例えば、資料2-1P31の「(6)国際連携・国際協力」の下に「(7)地方創生」として入れられないか。

さらに、第1期、第2期海洋基本計画では「深海」のことが盛り込まれていたが、この意見書では記載がなく、どこかで触れた方がよい。

- 「自由で開かれたインド太平洋戦略」について、資料 2-1 P 10 の 4 つめのポツにその記載があり、十分と考える。ただし、表現は、「大きな意義を有するものとする。」を「その一環をなす。」とした方がよい。

海賊については、例えば、資料 2-1 P 10 の 5 つめのポツに「海賊等事案」、P 12 の 4 つめのポツに「海賊対処法の適切な執行」とあり、記載がなされていると理解している。
- 「深海」のフロンティアに関する研究が重要という意見に賛成する。資料 2-1 のポンチ絵の「科学的知見の充実」に記載すべき。

今回の意見書は第 3 期海洋基本計画策定に向けたもので、昨年度以前の PT の議論も反映されるべき。資料 2-1 の前書きにも科学技術が重要であることを書き込んでいただきたい。

資料 2-1 P 29 の下から 7 行目に「領海、排他的経済水域及び大陸棚」と書かれているが、全体的に大陸棚に関する認識が弱いのではないか。配布された年次報告にも、延伸大陸棚を図示すべきだがそうした図が入っていない。
- 地方創生について取り上げてほしいという意見に賛同。もし記載されるのであれば、我が国は北から南まで幅広いので、「亜寒帯や亜熱帯まで幅広い環境の多様性をもっている。海の多様性に対応するため、地方をベースにした取り込みが必要」と加えたらより良いのではないか。
- 「深海」の記載を充実させることには賛成だが、概念として「深海」か「深海底」かに注意する必要がある。なぜなら、「深海底」は我が国の権益が及ばない。科学的知見を獲得して国際社会に貢献するという趣旨で「深海」もしくは「深海底」という言葉を適切に入れる必要がある。

大陸棚について、資料 2-1 の P 33 の EEZ の欄で延伸大陸棚の記載がある。延伸大陸棚の図を含めて公開することもありうるが、大陸棚限界委員会から勧告を完全にもらえていない状況なので、図を描いて公表することがいかにどうかについては、政策判断に任せたい。
- 資料 2-1 の概要のポンチ絵が一番大事で、今までの 5 年間で総括した上で主要なものを掲げるべき。「主要テーマ」と、「横断的・基礎的なテーマ」は同格ではないか。

また、「主要なテーマ」は、「主要な目標とすべき事項」の方がよいのではないか。また、「意義・重要性を有するテーマ」は、他のテーマが意義・重

要性がないように思えてしまう。「時期的にみて現段階で議論を集約させる必要があるテーマ」又は「時宜を得た総合的議論をすべきテーマ」というタイトルにすべきではないか。

- 参考資料 1 の MDA のポンチ絵は 8 月と同じで、不十分。線表を含めて新しい資料を示していただきたい。
 - 資料 2-1 P 8、P 29 のいずれかに、国民に海のことを知らせる手法として、広報・メディア戦略を重要な課題として入れてほしい。
 - 資料 2-1 P 6 で「事務局が司令塔として機能を」と書かれているが、これでいいのか、皆様の意見を聞きたい。
 - 「Ⅱ. 議論の集約」が冗長すぎるのではないか。
 - 資料 2-1 P 6 の中央の「理解していただくことの」という表現がおかしい。
- 資料 2-1 ポンチ絵が重要。今回の意見書は今年 1 年間の報告ではなく、次期計画に向けて過去数年の検討についても書く必要がある。
- 海洋人材の育成等について、資料 2-1 のポンチ絵と P 24 ~ の本文の立て付けが合っていないため修正が必要。
 - 資料 2-1 P 33 の「(11) 排他的経済水域等」で法律の記載しかないので、開発に関する内容を記載すべきではないか。
- 資料 2-1 P 6 の司令塔を含む記述に関して、総合的海洋政策判断の必要性については、第 5 回、第 6 回基本計画委員会で議論があり、発言させていただいた。総合海洋政策本部と総合海洋政策推進事務局の関係や表現については、制度、組織の観点からの記載であると理解しているが、適当であれば、再考願いたい。
 - 資料 2-1 P 33 の EEZ 等に関して、第 2 期海洋基本計画の記述から後退させてはならないという趣旨として理解でき、その点で、現記述で良いと考える。他方で、前回の委員会で議論があったとおり開発も重要であり、その追記という趣旨のご意見に賛成。
- 海洋基本法上の事務局の位置づけはどうなっているか。
- 海洋基本法に、総合海洋政策推進事務局が司令塔であることの記載はない。総合海洋政策本部に政府全体の司令塔機能があり、総合海洋政策推進事務局

は総合調整機能を行っている。

- 事務局は、関係省庁と連携して政策を進める。司令塔については、本部と事務局は一体と考えている。表現については再考したい。
- 推進の機能を総合海洋政策推進事務局が持つべきと考える。
- 司令塔機能は総合海洋政策本部が持ち、それを推進するのが事務局であると思うので、それがわかる書きぶりを変えていきたい。
- 司令塔機能と言った場合は、意志決定権限と予算執行権限を持つイメージとなるので、誤解されないようにすべき。
- いただいた意見をもとに意見書を修正していくが、簡単な方針を述べる。
 - ・「自由で開かれたインド太平洋戦略」については、兼原参与のご指摘の記述があるので、それに対応していきたい。
 - ・自然災害の部分は、再度検討していきたい
 - ・地方創生は、横断的なテーマであり、P 29に海に親しむ旨の記載があることを踏まえ、検討する。
 - ・「深海」は、法的なことや、第2期計画時と重要性が変わっていないことを踏まえ、記述したい。
 - ・大陸棚の記述は検討したい。
 - ・EEZの開発についての追記は、産業PTの内容を踏まえながら検討したい。
 - ・広報・メディア戦略の記述は検討したい。
 - ・全体的なこととして、要約は簡潔になるよう精査し、ポンチ絵はもう一度検証し、ポンチ絵だけが一人歩きしないよう適切なものとしたい。また、今年度の議論だけではなく、昨年までの議論の蓄積もきちんと反映したいが、最近の情勢及び昨年度の意見書も踏まえて、座長と相談しながらまとめていきたい。
- 「意義・重要性を有するテーマ」は、「時宜を得たテーマおよび継続的に重要性を持つテーマ」という名前が良いのではないか。
- 最終的な意見書に向けた調整については、座長一任でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声〕

- それでは、適切に調整した上で、本日の修正意見を反映した意見書を、今後、総合海洋政策本部長である内閣総理大臣、副本部長である江崎大臣に手交させて頂きたいと考える。政府におかれては、同意見書を踏まえ、次期海洋基本計画が適切に策定されることをお願いしたい。

3. 閉会

[江崎内閣府特命担当大臣（海洋政策）より閉会ご挨拶があった。]

以上